

清水の

豪援隊かわら版



清水ヒデキ

豪援隊長

弁護士・移民コンサルタント
(MARN: 9900985)

「オーストラリアから日本を援けよう」と豪援隊発足。16歳に単身オーストラリアに留学。その後ボンド大学卒業後、QLD州弁護士資格取得。長年に渡り、日本人ならびに日系企業、世界各国のクライアントのコンサルタント業務に従事。

<今月のビジネス紹介> 「Go オーストラリアコンシェルジュ」

この度、Go オーストラリアグループが Go オーストラリア・コンシェルジュという移住サポート・留学部門を開設する運びとなりました。

親子留学、単身留学、スポーツ留学、ワーキングホリデーなど、渡航形態は様々ですが、短期長期を問わず現地オーストラリアにある英語学校、専門学校、小中高校、大学などへの入学、体験学習、企業研修等をお考えの方、是非、当社へお問い合わせください。

留学コンサルタントを務めるのは、気持ちは二十歳だけど(実際は三十路を過ぎてしまった)独身の Mika さんです。高校卒業後、「英語を話せるようになりたい!」という単純な理由で、単独渡航し、大学付属の英語学校に1年通い、その後、何年も学生ビザで就学に励み(?!),自身の留学経験を活かし、コンサルタントとし苦節10年、数え切れないほどの留学生のサポートをしてきた大ベテランです。

Mika さん曰く、「オフィスに毎日いますので、いつでもお茶しに(お酒でも♪)来てくださいね(笑)!」ということです。

お問い合わせはこちらまでどうぞ。

E-mail: info@goaustralia-concierge.com

<今月の視点> 3月ですね

日本では3月といえば、卒業シーズンですね。年度末、確定申告、卒業、配置換え等で日本は忙しい時期です。オーストラリアも3月を迎えて、ようやく長い冬眠から目覚め、動き始めてきたようです。

不動産市場は回復基調にあるようで、知り合いの不動産業者の社長さんは、売り物件の在庫が間に合わないくらい、売れていると嬉しい悲鳴を上げていました。この前は売りに出して物件が30分で買い手がついたと自慢げに話していました。豪中央銀行総裁もオーストラリア経済が安定基調にあると月例会に、おいて語っていましたが、実際にその回復の理由が良く分からないというのが、今のオーストラリアの現状のような気がします。そんなこんなで、今月の視点です。

「瀕死のカンガルー」

空飛ぶカンガルーとして馴染み深いのが、オーストラリアを代表する航空会社のカンタス航空です。しかし、この空飛ぶカンガルーが瀕死状態にあるというニュースが今月の一番のニュースであったかもしれません。

2001年のテロ事件以降、航空業界はかなりのダメージを受けました。それに加え、LCC等の対等、価格競争、消費者がインターネット等での情報を駆使して安く航空券を購入するコツを得たことなどから、ますますカンタス航空のようなLCCではない普通の航空会社は厳しい状況に追いやられてきました。カンタスも65%近い国内線におけるマーケットシェアを確保するために頑張ってきましたが、それを維持するための体力がなくなってきたということです。

そのカンタス航空が、先日2014年度上半期における200億円ほどの赤字計上、5000人の職員解雇を発表したことは、相次ぐ自動車業界の撤退でダメージを受けていたオーストラリア経済により一層のダメージを与えています。この結果、各付け機関S&Pではカンタス株はジャンク(くず)扱い、投資対象に値しない会社のレッテルが張られてしまったこととなります。

(右上に続く→)

現在、豪議会では公的資金を通じてのカンタス救済措置を取るべきかどうかという点において議論がされています。そこで見直しが叫ばれているのがカンタス売却法というカンタス株売買に関する法律です。

その法律によりますとカンタス社株を外国人が49%以上保持してはいけないという制限が課せられています。これは、カンタス航空はあくまでもオーストラリアの航空会社というステータスを保持することを意図しています。しかし、この法律の改正をカンタス航空は強く連邦政府に求めており、それにより外資注入による資金調達を行おうとしています。

すでに60%強を外国航空会社で占める競合会社のVirginと同じ土俵に立って勝負をかけたいたいというのが狙いです。もし、改正が難しいのであれば、公的資金の貸し付けによって再建を図るというのが、もう一つの計画です。しかし、このままでは倒産も考えられるカンタス航空に対するそうした公的資金の貸し付けは他の企業へそうした救済措置を取らなかった現政府に対して、なぜカンタスだけ特別扱いなのかという反発に対する調整も必要になります。野党労働党は、当たり前のように改正に関しては反対です。外資が入り、過半数の株を持てば、会社に関連する様々な仕事が海外に移ってしまうというのが、労働党としての反対の理由です。

前述したように5000人の従業員の解雇ということもあり、労働組合も黙っていません。労組、企業、政府、この三者によるせめぎあいはオーストラリア経済の縮図ともいえます。この聖域とも言えるオーストラリア自慢の航空会社も今瀕死の危機に直面しています。空飛ぶカンガルーが、これまで通りオーストラリアの航空会社として飛び続けることができるか、今後の動きに目が離せません。

<今月のジョーク>

「低温やけど注意」

カイロに書かれている「低温やけど注意」は関西弁じゃありません。

そんなに親しげでもありません。

(ジョーク集より)

<今月の注目記事>

移民局プレスリリース
2014年3月11日付

移民局が Significant Investor Visa (SIV) 上級投資家ビザの一層のてこ入れをすることを発表しました。

2012年11月の導入以降、2013年9月までの連邦政府総選挙までに労働党政府下では28人のSIV申請が認可されたそうです。しかし、その後連立政府が政権を取った後、すでに116人のビザ申請が認可されており、それにより\$5億8千万ドルの投資金を確保したと発表しています。

正にこれは現政権が政権奪取後、自らの立ち位置の違いを見せたいということでの発表かと思われます。しかし今回、てこ入れをしようと発表した割にはSIVビザの審査官の数は相変わらず3人だけということで、このビザを本気に一生懸命発行しようというふうには見受けられない、移民局の真剣味(?)が本当にあるのか気になります。ある情報通によれば、移民局自体がSIVビザのような「お金で買うビザ」に対して、あまり好んでいないという話もあるとか。

どちらにしても、現在カナダへの移住が難しくなり、オーストラリアに改めて目が向いておりますので、それをどんどん生かしてぜひ停滞気味の市場を活性化させていただきたいと思えます。

<今月のジョーク おまけ>

「皆勤賞の副賞」

私は茨城の中学校に入学したときに担任の先生から、中学三年間の皆勤賞になると賞状と副賞として「ダーズリン」がもらえると言った。「ダーズリン」って紅茶がもらえるなんて、不思議だなあと思ったが、あまり深く考えることもなく3年間を過ごした。幸い、中学三年間大きなけがや病気もなく皆勤賞をもらえることになった。その時にふと副賞の「ダーズリン」のことを思い出した。「ダーズリン」をもらったら、卒業祝いでお茶でもしようと思っていた。そんな中、卒業式を迎え、皆勤賞の生徒が何人か呼ばれて、私も壇上に上がった。そして、校長先生から皆勤賞として受け取ったのは賞状と「大辞林」だった。帰り道に持ち帰るのは重かった。

(ラジオの投稿より)

<新着情報>

Coalition Govt presses ahead with 457 changes (連立政権 457 ビザ改正に着手を進める。)

ABC News Updated Sat 8 Mar 2014, 9:59am AEDT Lindy Kerin

様々な非効率的な政府の規制(レッドテープ)を廃止するという旗印のもとでアボット政権が現在行っているのが、レッドテープ廃止案です。

移民法のみならず、廃止となる各種規制は様々な分野にわたります。気になるレッドテープはいくつかありますが、今回はサブクラス 457 に関する規制の撤廃の話についてです。

ご存知の通り、現在 457 ビザでは各スポンサーが 457 ビザの上限を設定され、その人数までしか各企業がスポンサーができないということになっています。今回、そうした非生産的な規制を廃止しようという提案が政府からされています。その結果、スポンサーは上限の制限なしに外国人労働者を雇用できることとなります。

しかし、もちろんそうした動きに対して労働組合はだまっています。そうした、規制の緩和は外国人労働者がますます流入することにつながり、オーストラリア人の雇用機会を奪うことにつながると反対をあらわにしています。こうした声も以前までの労働党政権下であれば、何かしらの政府の反応を期待できたのですが、今は違います。労働組合に対しても、「あなたたちの言うことばかり聞いていたら、オーストラリアは世界から取り残されてしまう。そちらの弊害の方が大きい。」と、現政府は国際競争力を高めることを前提に経済と移民政策のバランスを取ろうとしています。

これ以外にも、気になるレッドテープ廃止がありましたら、お伝えしていきます。

<今月の名言>

私は、純粋な願望を持って苦しみ、悩み抜いている時、その問題の解決方法が突然見えてくるという経験を何度もしています。それは天から与えられたヒントのようなものと考えています。成功というものは、潜在意識に到達する願望の純粋さにかかっているのです。(稲盛和夫)

人を信じよ、しかしその百倍も自らを信じよ。時によっては、信じきっていた人々に裏切られることもある。そんなとき、自分自身が強い楯であり、味方であることが、絶望を克服できる唯一の道なのだ。(手塚治虫)

Go Australia Visa Consultant

Go オーストラリアビザコンサルタント ブリスベン事務所を新規開設いたしました。(ご面会のご予約制となります。)

このかわら版、またはビザに関する質問、お問い合わせは、こちらまでお気軽に！

ゴールドコースト事務所 住所: Suite no.222 Level 2 Watermark Hotel
3032 Surfers Paradise Boulevard Surfers Paradise QLD 4217
郵送先住所 PO Box 481 Isle of Capri QLD 4217
電話: +61-7-5570-4542, Fax: +61-7-3319-6131 (担当: 関)

ブリスベン事務所 住所: Level 4, 99 Creek Street, Brisbane QLD 4000
郵送先住所 P.O. Box 12257, George St, Brisbane QLD 4003
電話: +61-7-3040-2116, Fax: +61-7-3319-6131

E mail : info@goaustralia-visa.com Website : www.goaustralia-visa.com